

川崎病の治療をされる患者さんとご家族へ

多施設治療観察研究「川崎病の急性期治療の有効性にかんする他施設共同前向きコホート研究」
へのご協力をお願い

国家公務員共済組合連合会立川病院 小児科

1 研究の対象について

令和2年7月から令和5年6月まで、立川病院小児科にて川崎病または不全型川崎病と診断、急性期治療を受けた患者さん

2 研究の目的について

川崎病の標準的な治療は、免疫(ガンマ)グロブリン製剤の点滴とアスピリンの内服です。この治療法は世界的に確立していて、冠動脈瘤の発生率を5%未満に減らすことができます。

しかし、免疫グロブリン療法を行っても、15-20%の患者さんでは症状が改善しません。このように反応が不十分な免疫グロブリン不応例では、冠動脈瘤の合併率も高くなります。

このような免疫グロブリン不応例に対する治療法として、様々な炎症性疾患に用いるステロイドという薬を併用することで冠動脈疾患の発生を減少させることがわかっています。

当研究ではこれらの急性期治療の有効性と安全性を明らかにすることを目的としています。

3 研究の方法について

下期のカルテ情報を匿名化しデータセンターに送付、集計します。

生年月、性別、身長、体重、症状、検査結果(血液検査、心エコー検査結果など)、薬剤投与の方法と内容、冠動脈病変の有無および程度

4 患者さんのデータ収集と個人情報の取り扱い

これらの研究は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守し、中央施設である東京都立小児病院の倫理委員会の承認を得ています。研究の成果は国内外の学会や学術雑誌で発表されますが、患者さんを特定できる個人情報は含まれません。データはほかの目的には使用せず、特定の関係者以外のアクセスはできません。対応表は、当院の研究責任者が保管、管理します。

5 研究組織

<研究協力者>

足利赤十字病院 小林 靖明

永寿総合病院 三田村 敬子

太田記念病院 堀 尚明

川崎市立川崎病院 土橋 隆俊
慶應義塾大学医学部 山岸 敬幸
けいゆう病院 田口 暢彦
公立福生病院 松山 健、岡本 さつき、中橋 達
国立国際医療研究センター 大熊 喜彰、渥美 ゆかり
国立成育医療研究センター 小林 徹、小野 博、益田 博司
国立病院機構埼玉病院 上牧 勇、仲澤 麻紀
国立病院機構東京医療センター 込山 修
国立病院機構栃木医療センター 石井 徹、金光 将史
済生会宇都宮病院 高橋 努、小山 裕太郎
さいたま市立病院 玉目 琢也
静岡市立清水病院 上牧 務、進藤 淳也
新百合ヶ丘総合病院 多喜 萌
多摩南部地域病院 高安 博史
多摩北部医療センター 小保内 俊雅、仁科 範子、伊藤 史幸
東京歯科大学市川総合病院 水野 風音、瀧澤 有珠
東京都保健医療公社荏原病院 高柳 隆章、山本 佳樹
東京都立大塚病院 千賀 達子、馬場 義郎
東京都立墨東病院 三澤 正弘、平井 聖子、中村 隆広
東京都立広尾病院 小平 隆太郎、金 尚英、山田 倫子
日本大学医学部 鮎澤 衛、小森 暁子
日野市立病院 大門 佑美
平塚市民病院 山田 健一朗、松村 和哉
武蔵野赤十字病院 鈴木 奈都子、大柴 晃洋
横浜市立市民病院 山下 行雄
東京都立小児総合医療センター 榊原 裕史、松島 崇浩、森川 和彦

6 お問い合わせ先

ご質問やお問い合わせがある場合は、当科担当医または以下の連絡先までご照会ください。

この研究へ参加を了承されない場合はお申し出ください。参加されない場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究責任者：立川病院 小児科 荒巻 恵

〒190-8531 東京都立川市錦町 4-2-22

TEL 042-523-3131

研究代表者：三浦 大

東京都立小児総合医療センター 循環器科・臨床試験科

〒183-8561 東京都府中市武蔵台 2-8-29

TEL 042-300-5111